

[日] 堀辰雄 著

菜穗子



上海译文出版社

日 汉 对 照

菜 穗 子

〔日〕堀 辰 雄 著

吴 大 有 译注

上 海 译 文 出 版 社

日 汉 对 照

菜 穗 子

〔日〕堀 辰 雄 著

吴 大 有 译 注

上海译文出版社出版

上海延安中路955弄14号

新华书店上海发行所发行

江苏宜兴南漕印刷厂印刷

开本 787×960 1/32 印张 8.5 字数 131,000

1984年12月第1版 1984年12月第1次印刷

印数: 00,001—21,200册

书号: 9188·223 定价: 0.99元

出版说明

堀辰雄(1904—1953)，日本著名作家、诗人。高中时，他开始爱好文学，并进行创作，曾得到室生犀星、芥川龙之介的指导。1929年毕业于东京帝国大学文学系，毕业论文的题目为《论芥川龙之介》。他一生中发表过不少小说、诗歌和散文，代表作《起风了》，以及据此改编成的同名电影，已被介绍到我国(影片译名为《风雪黄昏》)。

中篇小说《菜穗子》，通过对主人公菜穗子在疗养所养病期间围绕丈夫黑川圭介和少年时代的挚友都筑明所产生的复杂微妙的心理活动的描写，反映出一个普通女性在人生道路上的彷徨与追求。文笔清雅抒情，心理刻画婉约细腻。这是作者的又一篇重要作品，1942年获第一届中央公论奖。原文选自中央公论社《日本文学》第42卷——《堀辰雄选集》(1979年版)，译文力求紧扣原文，以便读者对照。

本书的阅读对象为日语专业学生及日语自修者。

な お こ
菜 穂 子

「やっぱり菜穂子さんだ」思わず都築明は立ち止りながら、ふり返った。

すれちがうまで¹ は菜穂子さんのようでもあり、そうでないようにも思えたりして、彼は考えていたが、すれちがったとき急にもうどうしても菜穂子さんだという気がした。

明はしばらく目まぐるしい往来の中に立ち止ったまま、もうかなり行き過ぎてしまった白い毛の外套を着た一人の女とその連れの夫らしい姿を見送っていた。そのうちに突然、その女の方でも、今すれちがったのは誰だか知った人のようだったとやっと思ついたかのように、彼の方をふり向いたようだった。夫も、それに釣られた²ように、こっちをちよいと³ふり向いた。その途端、通行人の一人が明に肩をぶつけ、空けたように佇んでいた背の高い彼を思わずよろめかした。

明がそれからやっと思つたときは、もうさっきの二人は人込みの中に姿を消していた。

1. (すれちがうまで) 一直到擦肩而过为止。动词“すれちが

“准没错，是菜穗子。”都筑明不觉收住脚步，回头看望。

迎面走近时，他总觉得对方象是菜穗子，好象又不是；及至擦肩而过时，他又突然觉得，对方肯定是菜穗子了。

都筑明站在车水马龙、熙来攘往的大街上，目送着一位身穿白色呢大衣的妇女，以及走在她身边、看来是她丈夫的男人——他俩已经走远了。过了一会儿，那位妇女好象也朝都筑明回过头来，仿佛她此刻才猛然省悟：刚才擦肩而过的人似乎认识，但又记不起是谁了。象是受了她这一举动的诱发，那个男的也回头看了一眼。这时，一个行人的肩膀，撞在发呆似地伫立着的都筑明身上，撞得细高挑儿的他，禁不住打了个趔趄。

等到都筑明好不容易站稳身子时，方才的那一对，已经消失在杂沓的人群中。

う”表示擦肩而过，（车辆）交会。 2.〔釣られた〕“釣る”的原义为“钓（鱼）”，转义为“引诱、欺骗、勾引”等。在此表示“受到…影响、触动、诱发”。 3.〔ちょいと〕“ちょっと”的俗语。

何年ぶりかで見^みた菜穂子^{なほこ}は、何か目^なに立^めっ
て^{しやうすい} 憔悴^{けい}していた。白^{しろ}い毛^けの外套^{がいとう}に身^みを包^{つつ}んで、
並^{なら}んで歩^{ある}いている彼女^{かのじよ}よりも背^せの低^{ひく}い夫^{おつと}には無^む
頓着^{とんちやく}そうに、考^{かんが}え事^{ごと}でもしているように、真直^{まつすぐ}
を^み見たま^{あしばや}まで足早^{ある}に歩^いちどおつと^{なに}に歩いて^ないた。一度夫^{おつと}が何^{なに}か
彼女^{かのじよ}に話^{はな}しかけたようだったが、それは彼女^{かのじよ}に
ちらりと蔑^{さげす}むよう^{ほほえ}な頬笑^{うか}みを浮^{うか}べさせただけだ
った。——都築明^{つづきあきら}は自^じ分^{ぶん}の方^{ほう}へ向^{むか}って来^くる人^{ひと}込
みの中^{なか}に目^めざとくそう云^いう二^{ふたり}人の姿^{すがた}を見^みかけ、
菜穂子^{なほこ}さんを見^みるよう^{ひと}な人^{おも}だ^だがと思^{おも}い出^だすと、
俄^{にわ}かに胸^{むね}の動悸^{どうき}が高^{たか}まった。彼^{かれ}がその白^{しろ}い外套^{がいとう}
の女^{おんな}から目^めを離^{はな}さず^{ある}に歩^いいて行^いくと、向^{むか}うでも
一瞬^{いつしゆん}彼^{かれ}の方^{ほう}を訝^{いぶか}しそ^みうに見^みつめ出^だしたようだ
った。しかし、何^{なに}ん^きとなくこち^あらを見^みていなが
ら、まだ何^{なに}んにも氣^きづか^{あいだ}ないでいる間^{あいだ}のよう^な、
空虛^{くうきよ}な眼^{まな}ざし^{まな}だ^{まな}った。それ^{あきら}でも明^{あきら}はそ^{ちゆう}の宙^うに浮^う
いた^{まな} 眼^{まな}ざし^{まな}を支^{ささ}え切^きれないように、思^{おも}わ^{おも}ずそ
れ^めから目^めを外^そら^{かれ}せた。そ^{かれ}して彼^{かれ}がち^なょいと何^なん
でも^{ほう}ない方^みを見^みている暇^{ひま}に、彼女^{かのじよ}はとうとう目^め
の前^{まえ}の彼^{かれ}にそれ^きとは氣^きづか^{おつと}ず^{いつ}に^{いつ}、夫^{おつと}と一^{いつ}しよ^{いつ}に
すれちが^いって行^いってしま^いったの^いだ^いった……。

明^{あきら}はそれ^{あきら}からそ^{ふたり}の二^{ふたり}人^{ふたり}とは反^{はん}対^{たい}の方^{ほう}向^{こう}へ、な

1. (目に立って) 明显地, 显著地。 2. (菜穂子さんを見

不知怎的，一下子不见，菜穗子明显地变得憔悴了。她身穿白色呢大衣，并不理会走在自己身边、个儿比自己矮的丈夫，象是在思考什么问题似的，两眼正视前方，快步地走着。其间，她丈夫好象对她讲了句什么话，可是她只是淡然一笑，似乎在表示轻蔑。——都筑明在迎面走来的人群中，一眼发现了他俩，觉得女的象是菜穗子，于是一霎间怦然心动了。他目不转睛地盯着那位身穿白大衣的妇女，朝前挪动着步子。这时，对方也突然向他投来惊诧的一瞥。可是不知怎的，她那投向都筑明的目光却是空虚的，一如刚才什么也没有注意到时那样。然而，面对着这直瞪瞪的目光，都筑明好象经受不住了，他不由得避开了对方的目光。就在都筑明漫不经心地飘着其他方向的当儿，身穿白大衣的妇女，终于没有认出眼前的他，仍与丈夫一起，打他身旁走了过去……

接着，都筑明嗒然若丧地朝前迈起步，仿佛他顷刻间变得糊涂起来，不明白为何只有自己，必

るような人）＝菜穗子さんを見る時と同じ感じがする人＝菜穗子さんと同じように見える人／一个象是菜穗子的人。 3.〔宙に浮いた〕＝空中に浮いている／飘浮在空中。 4.〔それとは気づかずに〕没有理会到，没有认出来。

ぜ自分だけがそっちへ向^{むか}って歩^{ある}いて行^いかなければならないのか急^{きゆう}に分^わからなくなりでもした¹かのように、全然^{ぜんぜん}気がすすまぬように歩^{ある}いて行^いった。こうして人込みの中を歩^{ある}いているのが、突然^{とつぜん}何^いんの意味^みもなくなってしまうたかのようにだった。毎晩^{まいばん}、彼^{かれ}の勤^{つと}めている建築^{けんちく}事務^じ所^{しょ}からまっすぐおきくばげしゆくかえなんじかんい云^い真直^{さんぞう}に荻窪^{ひとぐ}の下宿^{なか}へ帰^ならずに、何時間^いもこう云^いう銀座^{ぎんざ}の人込み^{ひとご}の中で何^いんと云^いうこともなしに²過^{すご}していたのが、今^{いま}まではともかくも一つ^{ひとつ}の目的^{もくてき}を持^もっていたのに、その目的^{もくてき}がもう永久^{えいきゆう}に彼^{かれ}から失^{うしな}われてしまったとでも云^いう³かのようにだった。

今^{いま}いる町^{まち}のなか^{さんがつ}は、三月^ひなかば^びの、冷え冷え^{くも}と曇^たり立^{くれがた}った⁴暮^{くれ}方^ただった。

「なんだか菜穂^{なほ}子^こさんはあんまり為^し合^あせそうにも見えなかつたな」と明^{あきら}は考^{かん}え続^{つづ}けながら、有^{ゆう}楽^{らく}町^{ちやうえき}駅^{ほう}の方^{あし}へ足^むを向^むけ出^だした。「だが、そんなことを勝手^{かつて}に考^{かん}えたりするおれの方^{ほう}が余^よ程^{ほど}⁵どうかしている。まるで人^{ひと}の不^ふ為^し合^あせになつた方^{ほう}が自分^{じぶん}の気^きに入^いるみたいじゃない⁶か……」

二

つづきあきら きよねん はるし りつだいがく けんちくか そつぎよう
都築明は、去年の春私立大学の建築科を卒業

须朝着与他俩相反的方向走去。仿佛这样行进在摩肩接踵的人群中，突然失去了任何意义似的。每天晚上，都筑明从建筑事务所下班后，并不径直回获洼的寓所去，一般总要在银座的人群中，无所事事地消磨几个钟头。迄今，此举好歹还有个目的，可是这个目的，对他来说似乎永远不可企及了。

都筑明此刻所在的三月中旬傍晚的街头，暮霭沉沉，夜凉袭人。

“不知怎的，菜穗子看来不太幸福啊！”都筑明继续思忖着，朝有乐町车站方向走去。“不过，我这么瞎猜，太出格啦。我简直是在幸灾乐祸……”

二

都筑明去年春天从一所私立大学的建筑系毕

-
- 1.〔急に分からなくなりでもした〕动词、助动词连用形+某些提示助词+する，往往加强语气或调整语调。常用的提示助词有：は(口语中常常说成“や”)、こそ、も、でも…等。△あんなつまらぬ本は、誰も読みやしないよ/那么无聊的书，根本没人看哪！ 2.〔何んと云うこともなしに〕=なんということもなく/没有什么值得一提的事情；不知何故，没来由地，不由得。 3.〔…失われてしまったとでも云う〕这里的“とでも”，为补格助词“と”与提示助词“でも”之重叠。“でも”在此表示大致的范围和类别。 4.〔曇り立った〕=空がきわだって雲や霧でおおわれた。 5.〔余っ程〕“よほど”的俗语，语气比“よほど”强。 6.〔じゃない〕=ではない。

してから、ある建築事務所^{けんちくじ む しょ ところ}に勤め出していた。
彼は毎日荻窪^{かれ まいにちおぎくぼ}の下宿^{げ しゆく}から銀座^{ぎんざ}のあるビルディン
グの五階^{ご かい}にあるその建築事務所^{けんちくじ む しょ}へ通^{かよ}って来て
は、几帳面^{きちょうめん}に病院^{びやういん}や公会堂^{こうかいどう}なぞの設計^{せつけい}に向^{むか}
っていた。この一年間^{いちねんかん}と云うもの^い、時^{とき}にはそん
な設計^{せつけい}の為事^{し こと}に全身^{ぜんしん}を奪^{うば}われることはあつて
も、しかし彼は心^{かれ}からそれを楽し^{たの}しいと思^{おも}ったこ
とは一度^{いちど}もなかった。

「お前^{まえ}はこんなところで何^{なに}をしている？」とき
どき何物^{なにもの}かの声^{こゑ}が彼^{かれ}にささやいた。

この間^{あいだ}、彼^{かれ}がもう二度^{に ど}と胸^{むね}に思^{おも}い描^{えが}くまい³
と心に誓^{ちか}っていた菜穂子^{な お こ}にはからずも町^{まち}なかで
出逢^{であ}ったときのことは、誰^{だれ}にとて話^{はな}す相手^{あいて}もな
く⁴、ただ彼^{かれ}の胸^{むね}のうちに深^{ふか}い感動^{かんとく}として残^{のこ}され
た。そしてそれがもうそこを離^{はな}れなかった。——
あの銀座^{ぎんざ}の雑沓^{ざつとう}、夕方^{ゆうがた}のにおい、一^{いつ}しよにいた
夫^{おつと}らしい男^{おとこ}、まだそれらのものをありあり見^み
ることが出来^{でき}た。あの白^{しろ}い毛^けの外^{がい}套^{とう}に身^みを包^{つつ}んで
空^{くう}を見^みながら歩^{ある}き過^すぎたその人^{ひと}も、——こと
にその空^{くう}を見入^{み い}っていたようなあのとき^{まな}の眼^{まな}ざし
が、いまだにそれ^{おも}を思^{おも}い浮^{うか}べただけでもそれか
ら彼^{かれ}が目^めを外^そらせずにはいられなくなる⁵くら

1. (几帳面) 形容动词。意为：一本正经，一丝不苟，循规蹈矩。 2. (この一年間と云うもの) “と云うもの”在此强

业后，就开始在某家建筑事务所工作。事务所设在银座一幢大楼的五楼。他每天从荻洼的公寓来所里上班，一丝不苟地致力于医院和大礼堂之类的设计。在这一年的时间里，尽管他有时也被这种设计工作整个儿地吸引住过，但他的心里，却从未认为它是令人愉快的。

“你在这种地方干什么呀？”有一种声音，经常在他的耳边回荡。

前些日子，他在街上不期而遇自己曾经发誓不再思念的菜穗子。这件使他激动不已的事，他没有告诉任何人，而只是埋在心头；现在，他对此已经不能忘怀了。——那银座的熙熙攘攘的景象，黄昏时分的气息，还有与她比肩而行、看来是她丈夫的男人：这些都还历历在目。那穿着白色呢大衣、走起路来双目矍眇的她，——特别是当时她那种直愣愣地凝望天空的眼神，至今仍然清晰地留在都筑明的记忆中，只要一回想起来，他就会产生一种非把目光移开不可的痛苦感觉。

调时间。“もの”为形式体言，这一场合含“間(あいだ)”之意。
3.〔まい〕特殊型助动词。接五段动词等的终止形、五段以外动词等的未然形之后，表示否定的推量、意志和劝诱等。△僕はこれから、君には何も言うまい/我今后啥都不想告诉你了。
4.〔誰にとて話す相手もなく〕＝誰にだって話す相手もなく/无人可以诉说。5.〔…ずにはいられない〕“动词未然形+ずにはいられない”为惯用型，意为“不能不…”、“不禁要…”。

い、何か痛々しい感じで、はっきりと思い出されるのだった。——昔から菜穂子^{なほこ}は何か気に入らないことでもあった、誰の前^{だれ まえ}でも構わずにあんな空虚な眼ざしをした^{くうきより まな}す習癖^{しゅうへき}のあったことを、彼はある日ふと何かのことから思い出した。

「そうだ。こないだ^{ひと}あの人^{ひと}がなんだか不^ふ為^し合せ^{あわ}なような気がひょいとしたのは、事^{こと}によるとあのときのあの人の眼^{ひと め}つきのせいだったのかも知れない」

都築明^{つづきあきら}はそんなことを考え出しながら、しばらく製図^{せいず}の手を休めて、事務所^{じむしょ}の窓から町の屋根^ねだの、その彼方^{かなた}にあるうす曇^{ぐも}った空^{そら}だの³を、ぼんやりと眺めていた。そんなとき不意^{ふい}に自分^{じぶん}の楽しかった少年時代^{しょうねんじ だい}のことなんぞ⁴がよみ返^{がえ}って来たりすると、明^{あきら}はもう為事^{しごと}に身^みを入れず、どうにもしようがないように、そう云う追憶^{ついおく}に自分^{じぶん}を任せ切^{まか}っていた。……

その赫かしい少年^{かがや しょうねん}の日々は、七つ^ひのとき両親^{りやうしん}を失^なくした明^{あきら}を引きとって育ててくれた独身者^{どくしんしゃ}の叔母^{おば}の小さな別荘^{べつそう}のあつた信州^{しんしゅう}の〇村^{そん}と、そこで過^{すご}した数回^{すうかい}の夏休^{なつやす}みと、その村^{むら}の隣人^{りんじん}であつた三村家^{みむらけ}の人々^{ひとびと}、——ことに彼^{かれ}と同じ年^{おなとし}の菜穂子^{なほこ}とがその中心^{ちゅうしん}になっていた。明^{あきら}と菜穂子^{なほこ}と

——一天，都筑明突然从某件事联想到，菜穗子以前有个习惯：一遇到什么不称心的事儿，不管当着什么人的面，她都会显露出那种空虚的眼神。

“对，那天我之所以会突然觉得她似乎有点儿不幸，也许正是因为当时她那种眼神的缘故吧。”

都筑明这么思索着，暂时停下正在制图的手，透过事务所的窗户，怔怔地眺望着城市的屋顶和远方微阴的天空。这时，自己欢乐的少年时代，便突然复苏了。都筑明于是放下手中的工作，无可奈何地任凭自己追忆往事……

都筑明七岁时父母双亡，由独身的姑妈领养大。他姑妈在信州的O村，有一幢不大的别墅。他那光辉灿烂的少年时代，最值得怀念的是信州的O村，在O村度过的几个暑假，以及村里的邻居——三村家的人们，特别是与他同岁的菜穗子。都筑明与菜穗子经常在一起打网球，或者骑

1.〔こないだ〕为“このあいだ”的约音。 2.〔事によると〕副词。意为：可能、也许、说不定。 3.〔だの〕并列助词。用在列举的事项之后，意为：等等、之类、…啦…啦。 4.〔なんぞ〕副助词“など”的俗语。

はよくテニスをしに行ったり、自転車に乗って
遠乗りをして来たりした。が、その頃からす
でに、本能的に夢を見ようとする少年と、反対に
それから目醒めようとする少女とが、その村を
舞台にして、互に見えつ隠れつ¹しながら真剣に
鬼ごっこをしていたのだった。そしていつもそ
の鬼ごっこから置きざりにされるのは少年の方
であった。……

ある夏の日のこと、有名な作家の森於兎彦が
突然彼らの前に姿を現わした。高原の避暑地と
して知られた隣村のMホテルにしばらく保養に
来ていたのだった。三村夫人は偶然そのホテル
で、旧知の彼に出会って、つい長い間よもやま
の話をし合った。それから二三日してから²、O
村へのおりからの夕立を冒しての彼の訪れ、養
蚕をしている村への菜穂子や明を交じての雨
後の散歩、村はずれでの嬉しいほど期待に充ち
た分かれ、——それだけの出会が、すでに人生
に疲弊したようなこの孤独な作家を急に若返ら
せでもさせたような、異様な亢奮を与えずには
おかなかった³ように見えた。……

1. (見えつ隠れつ) “…つ…つ” = “…たり…たり”, 表示两者之间的交互行为。△追いつ追われつ/(互相)追来追去。 2. (二三日してから) “する”可以表示时间的经过, 一般采用“し

着自行车去远处游玩。当时，一个是正本能地充满幻想的少年；与此相反，另一个则是即将变得懂事明理的少女。两人在O村这个天地里，你躲我藏，一本正经地玩着捉迷藏游戏，而玩到一半，少女每每撒下少年，一个人溜之大吉……

有一年夏天，知名作家森于兔彦突然出现在他们的面前。他是来邻村这个遐迩闻名的高原避暑胜地作短期休养的，下榻在M旅社。三村夫人在那家旅社与这位老相识邂逅后，结果天南地北地闲扯了很长时间。两三天后，森于兔彦冒着夏日傍晚的骤雨，来O村访问；雨后，他与菜穗子和都筑明等一起，去一个养蚕的村庄散步；最后，又在村头怀着愉快的心情，与他们分了手——这次邂逅，看来肯定给了这位业已对人生感到厌倦的孤独的作家以异样的亢奋，使他好象一下子返老还童了……

たら”、“すれば”、“すると”、“してから”的形式，用来叙述尚未发生的事情。△あと五年したら、この子も大学生になるんだね/再过五年，这个孩子也将成为大学生了吧。3.（…ずにはおかなかった）“动词未然形+ずにはおかない”为惯用型，意为“不能不…”、“非…不可”。这与“动词未然形+ずにはいられない”有微妙的区别：前者一般表示主观意志；后者大多反映客观状态。例如：“今度こそ、相手を倒さずにはおかないぞ”表示“…必ず倒すという決意”；“今度こそ、相手を倒さずにはいられない”表示“結果として倒さなければ、気持がおきまらないという状態”。